

## はじめに

当会が車椅子を送り出して、この15年間、一度も切れることなく海外にお届けできております。これもひとえに多くの皆様のご支援、ご協力をいただいた結果であり、心から感謝申し上げます。一人ひとりの力をお借りして、築き上げてきた結果です。

車椅子を送り続けてきた結果、ただ受け取るだけではなく、自ら補修、整備に取りかかり、現地でも意欲的に進めていきたいという声が高まってきた国々を訪問しました。同時に、何が問題点なのかどこが障壁なのかを具体的に知りたいと思い、ご挨拶を兼ねてマレーシアとタイを訪問しました。

## マレーシア

元ALEPS会長 サイド・プテラ氏

自費を投じて車椅子工場を立ち上げ、西野さんの指導の下、小型車いすを製造できるまでに成長を遂げました。約1000万円をかけていますし、本気度が伝わります。近々、工場を自宅横に移設する計画です。

サイド氏はいままで40台を自ら製作し、マレーシアの子どもたちに8万円ほどでお渡ししてきました。今後は月産20台を目標とし、スタッフを雇い、製作を継続していきたいそうです。

当会の送りこむ物品については、歩行訓練器、車椅子、電動車いすを歓迎しますとのことでした。座位保持装置は、需要が減少傾向だそうです。その理由は、家が小さいことに起因するようです。装具は2才から15才までの需要が高く、順次配布しているとのことでした。

課題は、届いた車椅子の中で、後輪サイズが16と24インチが自転車用タイヤでは無理だそうです。具体的にはリム幅とタイヤ幅が違うことで無理にはめ込むと外れやすいことが気になる点と語っておりました。車いす用のタイヤの特殊性が、彼を悩ましており、タイヤがないということ、は短命に終わるかもしれないということになります。サイド氏にもムシゴムをお渡ししておきました。

それでも子ども用車椅子の製作に意欲的であり、個人運営とはいえ多額を投じて人道支援をしていく姿勢には頭が下がります。本年、お届けすることができないことをお詫びしておきました。

## タイ

### ① APHT会長 サッパ・チープ氏

障がい者が障がい者用の車椅子を製造する工場を有し、月産 30 台の車椅子、30 台の三輪自転車をタイ国内に送り出しています。フレームはすべてアルミ合金（No. 6061）製で、ひと昔の鉄製ではありません。設備、工具がすべてそろい整備体制も完璧でした。虫ゴムを提供したところ、大変喜ばれました。

当会から送りこむにあたり、歩行訓練器、座位保持装置を歓迎してくださるそうです。半分未整備、半分整備済みを送ることを伝達しておきました。ここでは施設内で使用することから、座位保持装置を受け入れてくださるのでしょうか。10 月ごろの到着予定とされていることをお伝えしました。

課題はここでも後輪の 16 インチが手に入らないことでした。24、20 インチは問題ないそうです。バルブは米式が主流とのことです。

車椅子は何台か、いつ到着するのかなど、待ちきれないようで、どんどん送ってほしいとの意欲が伝わってくるスタッフの皆様でした。

### ② 在タイ日本国大使館 一等書記官 木村剛一朗氏

タイにおける福祉事情に詳しい方でした。当会から 10 月ごろに送りこむ車椅子の贈呈式に出席してくださるよう依頼したところ、快諾でした。事前にわかれば、現地新聞社に情報を流してくださるそうです。ありがたい支援のお話でした。

### ③ タイ日本人学校校長 室賀薫氏

当会発足時にマレーシア日本人学校校長で会った室賀氏に、当会の代理人として生徒さんと式典に出ていただいた恩人です。タイにおいても式典参加をお願いしたいと思っております。なお、タイ日本人学校は、日本人が学ぶ学校としては、世界最大の生徒数 2500 人だそうです。次に上海日本人学校だそうで、マンモス校のご案内をしていただきました。特殊学級も併設していることに驚きました。

## さいごに

フィリピン、マレーシア、タイ の三国をまわりました。自国で整備ができること意欲的に取り組んでいく姿勢、工具、道具がそろっていることなどを確認しましたが、ムシゴムはやはり二年に一度は交換しないと維持が困難であることを痛感しました。一部ですがタイヤは、自転車用の転用ができないこともわかってきました。やはり、車椅子の維持はタイヤの管理にかかっており、これさえしっかりしていれば、相当の年月にわたり使い続けることができるはずと確信した旅路でした。フレーム破損はめったになく、最大のポイントは後輪タイヤの補修管理ということです。

以上

在タイ日本大使館限界前にて。真ん中が木村剛一郎一等書記官。





APHT会長と森田



タイ日本人学校 室賀薫校長と面談

今後の送付計画の具体案を話し合う

## APHT工場風景





多岐に渡る車椅子を製造できる工場。手で動かす三輪車、競技用車いすなど。製造のみならず、不具合のある車椅子の補修も手掛けていた。部品の入手が問題ある点を除けば、技術は申し分ないであろう。当会から送る車椅子の受け入れ先としては理想である。